

# カハニア



指定障害者支援施設

さやま園  だより

**GOOD DAY SUNSHINE PROJECT!**

北陸新幹線の開業で、観光客が増加したというニュースが新聞紙面をにぎわせている。本州四国連絡橋の完成で、四国はすでに地続きである。平成28年には、新幹線がついに北海道に上陸する。日本中が新幹線で結ばれる日は間近である。

規模は違うが、さやま園も十月の「ホール前トイレ」の改修工事で、ついに全館バリアフリーになった。果たして、平らになった園内は、利用者のみなさんにとって快適な環境となり得るか。

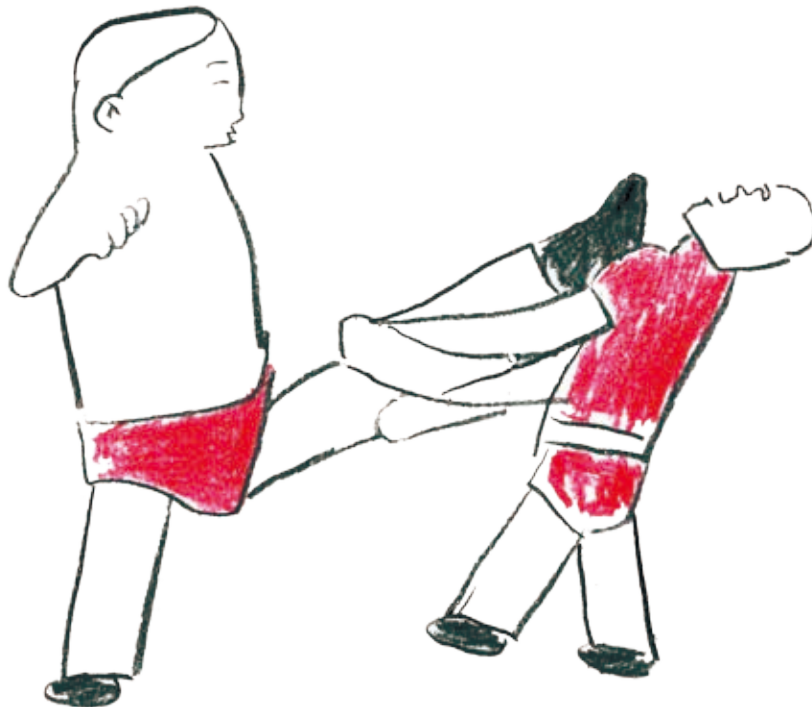
3年前の大規模改修工事で、畳敷きだった居室をフローリングにし、ベッドを利用する生活に変えた。トイレの床面を上げ、すべての便座を洋式にした。公用車も車いす仕様のもものが2台ある。

車いす、カート利用の方の増加に伴い、平らになってよかったねと胸をなで下ろすことが多くなった。

福祉業界で長く禄を食んでいると「平等」や「区別・差別」「対等な関係」など、いわゆるそのあたりのバリアフリーも当たり前のよう話題になる。

そんな折、障害者プロレス『ドッグレッグス』を観戦する機会を得た。体重や障害種別、障害程度に関係なく戦う彼ら（女性も）に、度肝を抜かれた。

なぜか生半可なバリアフリーのうんちくが、陳腐に見えてしょうがない。



## さやま園 よもやま話 PART2

### 「あの頃は…」座談会

今回も、さやま園歴五十年の大ベテラン 松本さん、大野さん、大越さん。ゲストに元職員の大野さんをお招きして、今はなくなってしまう懐かしい行事のことを語っていただきます。

**橋本さん**：当時は、とにかく家庭での経験が少ない人が多かったので、経験をさせたいという思いが強くなりました。海もそのひとつで、始めの頃は3泊、100名全員でバスを連ねて行っていました。保護者も一緒に行って、現地で集合したりしていましたね。

**松本さん**：海は怖いから入らなかった。けど、楽しかった。

**大越さん**：唇が青くなって、急いで上がったよね。

**橋本さん**：そうそう、大勢だったから夏休みの時期は宿が取れなくて、7月初旬行っていたから年によってはすごく寒かったよね。

**大野さん**：バスでお菓子を食べたり、歌を歌いながら行ったよね。

♪うみへ行こうよ 麦わら帽子かぶって 浮き輪をもって ザンブリザンブリ よせる波 海はみんなの楽しい広場♪

一人が歌い始めると、みなさんが声をそろえて歌い始めました。さやま園のオリジナルソングまであったのです。

**橋本さん**：歌集を作ったり、夜の出し物の準備をしたり、みんなと一緒にやっている感じがすごく強くなりましたね。

**松本さん**：桜を見にいったよね。

**橋本さん**：そうそう多摩湖まで歩いて行ったよね。あの頃はみんな若くて元気だったからよく歩いたよね。お弁当は、車で持ってきてもらったね。

**大野さん**：カセット持って行ったよね。

**橋本さん**：散歩でもカセットデッキを持って行って、流行歌や童謡を歌ったわね。

みなさんのカラオケ好きはこの頃に培われたのでしょうか。歌ったり、踊ったり、楽しみ上手ですよ。

今は歌われなくなってしまった海の歌を忘れることなく楽しそうにみんなで合唱している姿から、毎年毎年楽しみにしていたのだろうなと想像することができました。

今回は、海を中心とした行事のことを伺いました。次回は、明野のことを伺う予定です。お楽しみに。



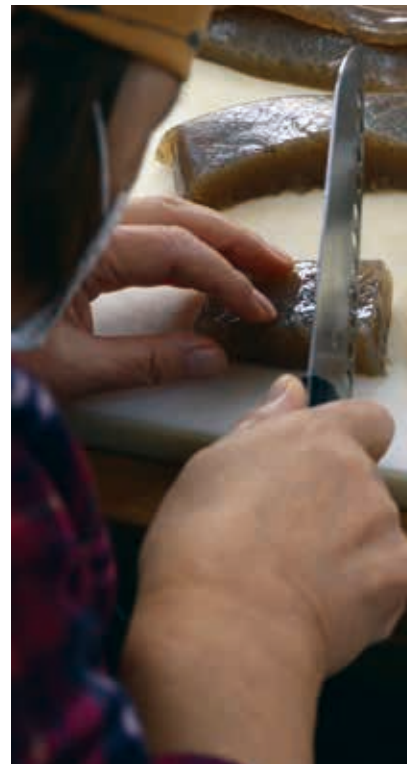
## DAY ACTIVITY REPORT

# 日中活動レポート みつぼしの巻

本棟1階の奥に、いつも包丁の小気味よい音と、あま〜い香りが漂ってくる部屋があります。入って右手に流し台、正面には据え置き型のオーブン、そして真ん中には大きなダイニングテーブルが設えられています。ここはグループ「みつぼし」の拠点、調理実習室。さやま園名物ぶたレーヌや、園内で人気の『みそ汁や』のご飯が作られます。

「みつぼし」には大きく分けての2つの活動があります。先に述べたぶたレーヌやクッキー等を作っている生産チームと『みそ汁や』チームの活動です。

これからこの2つの活動について、ご紹介しようと思います。



### 生産チーム

生産チームは、東村山市社会福祉協議会や他施設、地域でのイベントや学園祭等へ積極的に参加し販売を行っています。また試行錯誤を重ね、アイデアを出し合いながら新商品を考えております。クッキーはチョコチップ・チーズ・生クリームと種類も豊富です。

時には園内で「ぶたカフェ」をOPENしています。園内にいながらカフェ気分が味わえると利用者さんには大人気!美味しいぶたレーヌは好評でリピーターファンまでいるとか…。

### 生産チーム利用者の声

石井さん・・・「最初は慣れなかったけど、今では進んで仕事ができるようになりました。」

「また、売りに行ってお客さんに『美味しい』と言われると嬉しいです。」

棚網さん・・・「ぶたレーヌの型入れはとても難しいです。大変だなと思うこともあるけど、やりがいもあります。」

### 職員の声

田村さん・・・「利用者みなさんは、作業としてではなく、『仕事』として誇りをもち活動しています。最近では『これをやるよ』と言えば必要な道具を用意したり、作業しやすいように片付けたりと先を読んで自ら行動しています。何年もやっているため要領がつかめてきたようです。」

「また、買っていただく喜びや達成感等もあるようで、販売は気合を入れています。」



「みそ汁や」  
チーム

『みそ汁や』は、「コンビニ弁当ばかりでは体に悪い」「あったかいみそ汁を食べてもらいたい」。そんな思いと、「料理好きな利用者さんの気持ちに答えたい」「利用者さんの料理の腕をみんなに知らせたい」そんな思いから生まれました。

職員向けに毎週金曜日10食限定で販売しています。献立作りから始まり、買い物試作品作りと大忙し。安くて美味しくてボリュームなみそ汁やの定食は大人気で、今では争奪戦です。また、みそ汁やでの食事の時間は職員にとって、リラックスの場、コミュニケーションの場となっています。

職員の声

深代さん・・「私が食べる時いつも一合多く炊いてくれています。そんなみなさんの愛を食べて午後の仕事を頑張ってます。」  
渡邊さん・・「私にとって『みそ汁や』はさやま園の楽しみの一つです。金曜を励みに頑張っています。またそこで栄養を摂っています。」

販売の  
お知らせ

わくわく さやま

場所：東村山市社会福祉協議会1F／住所：東村山市野口町1-25-15

日時：毎月第3火曜日12時～13時

販売品目：ぶたレーヌ・クッキー等



## みそっかす編集員のひとり言

---

はじめまして。みそっかす編集員の林と申します。  
7年ほど前にひよんなことから、知的障害者施設でデザインや創作活動のお手伝いをするようになり、昨年からは、さやま園の広報委員会のお手伝いをしています。よろしくお願いします。

今、小説家・高橋源一郎さんの本を、読んでいます。でもそれは小説ではなく、コラムのような.. 書評のような本...  
朝日新聞に2011年から掲載されている、彼が寄稿した「論壇時評」をまとめた本です。その時々のお社会のこと、政治のことなど、色々な人が発信した言葉や事柄を引用しながら、彼がその時代を考察している本で、新聞をテレビ欄から見始める私でもわかり、カジュアルな文章で書かれています。

その中の「教育」について語っている章に、「普通に生きる」という重症心身障害児の親たちが、通所施設をつくるまでの奮闘ぶりを撮った映画を取り上げ、書かれた文があります。  
以下がその文です。

”施設の所長は述懐する。  
『この子は私が見ないと駄目だから・・・といって困ってしまったんでは、社会も育っていかない』  
体も動かず、ことばも発することができない心身障害児が、親を動かし、成長させる。そしてその親たちが鈍感な社会をまた成長させていく。弱い者、小さい者もまた、強い者、大きな者を育てることができるのだ。”  
”もっとも弱い存在でありながら、それに触れる者を、つき動かし、変えずにおかない力を持つ故にである。それは最良の「教師」の姿ではないかとぼくは思ったのだ。”  
(「ぼくらの民主主義なんだぜ」高橋源一郎著 朝日新聞出版より)

とっても共感してしまった。  
7年前の私は、鈍感な社会にいて無関心に日々を過ごしてきた一人だったからだ。そんな私を成長させてくれた?のは、紛れもなく、世に言う「弱い人」のいる、福祉の現場だと思うから。  
もっと福祉が、社会に対して、できることってある気がするな。まずは7年前の私みたいな人に、もっともっと福祉の現場に触れてもらいたい。

そのキッカケをつくるため、楽しくおもしろい仕掛けを創らなきゃ、と試行錯誤する日々であ〜る。

## 職員のつぶやき

---

宝塚歌劇団に通うようになって早数年。思い返せば、初観劇は小学校低学年でした。

煌びやかな衣装、激しいダンス、素晴らしい歌声、私は一瞬で宝塚に魅了されました。

また、ダンスを習っていた私にとって舞台上で輝く彼女達は、目標であり憧れでした。ダンスの発表会で舞台上に立ち歓声を浴びる度に、タカラジェンヌと同じ「舞台人」としての喜びを感じたことを覚えています。15年間ダンスを習い、数え切れない程舞台上に立ちましたが、私は現在「舞台人」ではなく異なった道を歩んでいます。しかし、宝塚の華やかな舞台を忘れたことはありません。観劇する度、その舞台からたくさんパワーを頂きます。そのパワーが私の活力となり、笑顔の源となっています。皆様に、そのパワーを少しでもお分けできたら幸せです。

生活支援員 渡邊 英棕捺

## 編集後記

---

早いもので今年もあとわずか.....さやま園の中庭も秋から冬へ移りつつあります。

今年も色々な事があった一年でありました。行事に参加した園祭ではフリマ担当。沢山のお客様に来て頂き売り上げも前年度を越す事が出来、来園者や利用者の方と楽しい時間を過ごせました。

さて来年の干支は申!  
また自分の干支が巡ってきて12年はあつという間だと実感しています。なぜか嬉しさより悲しさがこみ上げてくる“年女”という言葉。私だけでしょうか?来年もさやま園を盛り上げて行く“申”になって行こうと思います。

## 行事

---

《報告》10月：さやま園祭

《予定》・12月：クリスマス会・1月：新年会

発行元：指定障害者支援施設 さやま園

発行責任者：宮本浩史

住所：〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-7-13

TEL：042-391-3275 ・ FAX：042-391-3276